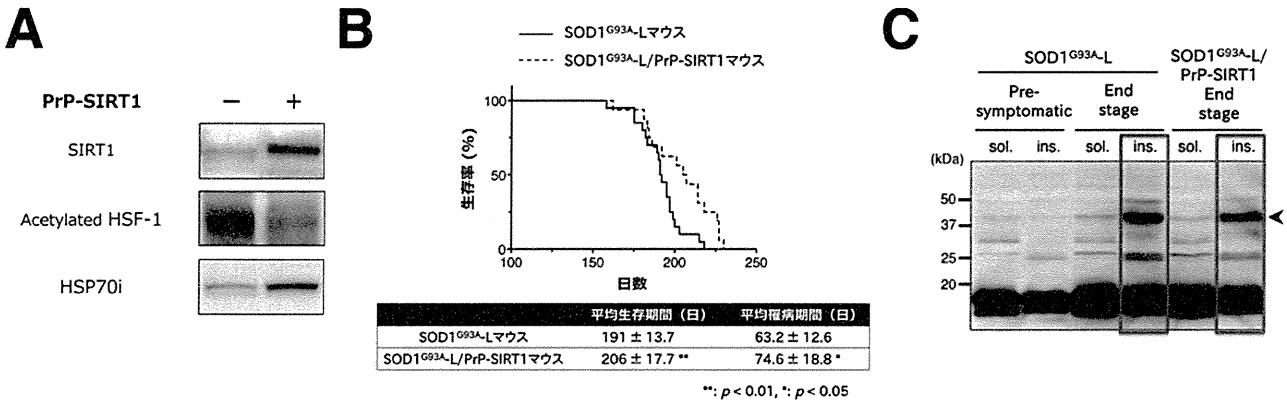
細胞に速やかに取り込まれてリソソームに局在したが、変異 SOD1 の発現下では酸化ストレス依存的に細胞質へ漏出して凝集体を形成することが判明した（図 2C）。このことから、リソソームプロテアーゼの異常化が想定され、実際、CysC のカテプシン B に対する阻害作用もオートファジーと同様に細胞保護に必須であることが明らかとなった。また、変異 CysC およびカテプシン阻害剤を用いた検討から、カテプシン B の阻害作用もオートファジーと同様に単独では細胞保護に十分でないと判明した。従って、CysC は AMPK を介したオートファジーの賦活化とカテプシン B の阻害を協調的に行うことによって、神経細胞保護的に機能していることが明らかとなった（図 2D）。

D. 考察

本研究により中枢神経系における SIRT1 の活性化が、HSF-1/HSP70i 経路の活性化による異常タンパク質の分解を介して、変異 SOD1 由来の毒性に対して神経細胞保護的に機能することを初めて明らかにした。SOD1G93A-H では生存期間の有意な延長は見られなかったが、これは HSP70i の量が SOD1G93A-H では飽和していた可能性が考えられた。従って、分子シャペロンは異常タンパク質由来の毒性から神経細胞を保護する重要な経路であるが、十分な効果を発揮するにあたっては、オートファジーやプロテアソームなど、他の異常タンパク質分解経路と併せて協調的に活性化することが必要であると考えられる。また、PrP-SIRT1 マウスは寿命や神経学的、行動学的な特徴が野生型と変わらず、今後、神経疾患などにおける SIRT1 の役割を明らかにするうえで有用なツールになると期待される。

さらに、本研究により CysC も変異 SOD1 由来の毒性に対して神経細胞保護的に機能することが判明した。興味深いことに、オートファジーの賦活化とプロテアーゼの阻害は共に細胞保護に必須であったが、単体では十分でなく、協調的に活性化される必要があった。このことは、SIRT1 の場合とも同じく、単一の細胞保護経路の活性化のみでは毒性を緩和するのに十分な効果を発揮できず、限定的な効果に留まることを示唆している。従って、今後、ALS の治療戦略を考えるうえで、複数の細胞保護経路の活性化を組み合わせていくことが必要になると考えられる。また、CysC は酸化ストレス依存的にリソソームから細胞質中へ漏出して凝集したことから、変異 SOD1 が酸化ストレスを介してリソソーム膜を傷害する可能性、およびブニナ小体は CysC の保護効果に伴う副産物である可能性が示唆された。



	平均生存期間（日）	平均罹病期間（日）
SOD1^{G93A}-Lマウス	191 ± 13.7	63.2 ± 12.6
SOD1^{G93A}-L/PrP-SIRT1マウス	206 ± 17.7 **	74.6 ± 18.8 *

**: $p < 0.01$, *: $p < 0.05$

図 1 SIRT1 は HSF-1/HSP70i 経路を活性化して異常な SOD1 を減少させ、神経保護効果を発揮する **(A)** PrP-SIRT1 マウス腰髄を用いた SIRT1, アセチル化 HSF-1, HSP70i のイムノブロット像. **(B)** SOD1^{G93A}-L マウスおよび SOD1^{G93A}-L/PrP-SIRT1 マウスの生存曲線. **(C)** Triton X-100 に可溶性（sol）および不溶性（ins）の各画分における SOD1 のイムノブロット像. 矢頭は SOD1 凝集体.

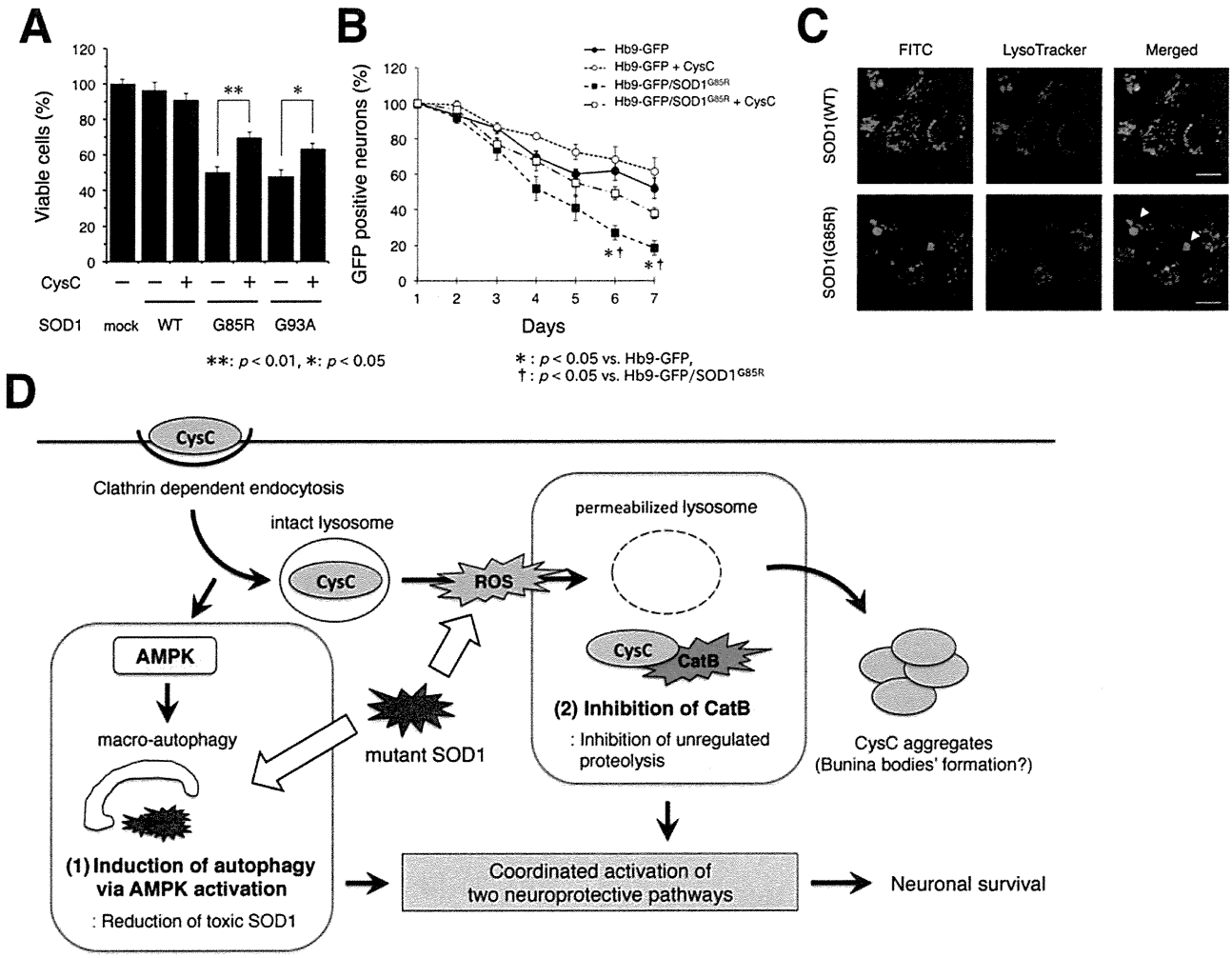


図 2 CysC はオートファジー賦活化とカテプシン阻害の協調的活性化により神経細胞を保護する (A, B) 培地に添加した CysC による変異 SOD1 を発現する Neuro2a 細胞（A）および初代培養運動神経細胞（Hb9-GFP 陽性細胞数）（B）に対する細胞保護効果. **(C)** FITC 標識した CysC の細胞内局在. 赤色はリソソームを示す. 矢頭は細胞質にある CysC 凝集体. **(D)** 本研究より明らかとなった CysC による神経細胞保護機構の模式図.

E. 結論

本研究によって SIRT1 および CysC は ALS における新規の内在性神経保護因子であることが明らかとなった。今後、これらの因子を活性化することによって効率的に運動神経細胞を保護する、新規の治療戦略が可能になると期待される。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Watanabe S, Ageta-Ishihara N, Nagatsu S, Takao K, Miyakawa T, Misawa H, Takahashi R, Kinoshita M, Yamanaka K*. SIRT1 overexpression ameliorates a mouse model of SOD1-linked amyotrophic lateral sclerosis via HSF1/HSP70i chaperone system. Molecular Brain 7: 62, 2014.
2. Watanabe S, Hayakawa T, Wakasugi K, Yamanaka K*. Cystatin C protects neuronal cells against mutant copper-zinc superoxide dismutase-mediated toxicity. Cell Death Dis 5: e1497 (2014).

3. Mizuno M, Ueki Y, Sakurai K, Okita K, Endo F, Yamanaka K, Morita M, Matsukawa N. A case of familial Amyotrophic Lateral Sclerosis showing gadolinium-enhanced cranial nerves in MRI associated with rapid progression of facial nerve palsy. Neurol Clin Neurosci, 2: 54-56, 2014.
4. Austin JA, Wright GSA, Watanabe S, Grossmann JG, Antonyuk SV, Yamanaka K, Hasnain SS. Aggregation resistant TDP-43 RRM domain disease mutants have increased stability and half-life. Proc Natl Acad Sci, USA, 111: 4309-14, 2014.
5. 小峯起、山中宏二：グリア–末梢免疫組織連関からみた神経変性機序の解明 –筋萎縮性側索硬化症を中心として–. 遺伝子医学 MOOK 26 号: 84-89, 2014
6. 遠藤史人、山中宏二：筋萎縮性側索硬化症におけるグリア病態・神経炎症. 医学のあゆみ, 248: 901-905, 2014.
7. 山中宏二:マクロファージとは似て非なる細胞ミクログリアと神経変性疾患. 細胞工学, 33: 1251-55, 2014
8. 渡邊征爾, 山中宏二: グリア細胞と神経変性. Brain Medical, 126: 237-241, 2014.

2. 学会発表

1. 山中宏二, 筋萎縮性側索硬化症における細胞群特異的病態の解明, 第 55 回日本神経学会学術大会 学会賞受賞招待講演, 福岡, 2014.5.21-24（招待講演）
2. 山中宏二, 神経変性疾患におけるミクログリア・単球系細胞の役割, 千里ライフサイエンスセミナー「マクロファージの多彩な機能と疾患」, 大阪, 2014.5.28（招待講演）
3. 山中宏二, グリア細胞からみた神経変性, J-CAN 2014, 東京, 2014.8.23（招待講演）
4. 山中宏二, 細胞群特異的な ALS 病態解明：治療標的の同定に向けて, 第 9 回岐阜脳神経研究会, 岐阜, 2014.12.15（招待講演）
5. 山中宏二, ALS の未来治療：グリア細胞、長寿遺伝子産物（サーチュイン）を中心に, 第 10 回 ALS 自立支援千葉東葛ネットワーク会議, 市川, 2014.11.3（特別講演）
6. 山中宏二, TDP-43 変異の生化学的異常, 第 55 回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014.5.21-24 (シンポジウム)
7. 山中宏二, 筋萎縮性側索硬化症における TDP-43 の機能異常, 日本プロテオーム学会 2014 年会, つくば, 2014.7.17-18, （シンポジウム）
8. 山中宏二, 神経変性疾患 ALS における自然免疫機構の役割, 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13（シンポジウム）
9. 山中宏二, ALS/FTLD における RNA 代謝・スプライソソーム異常, 第 33 回日本認知症学会学術集会, 横浜, 2014.11.29-12.1（シンポジウム）
10. Endo F, Komine O, Wyss-Coray T, Yamanaka K. Astrocyte-derived TGF-β1 accelerates disease progression in ALS mice by interfering with the neuroprotective functions of microglia and T cells. 9th Brain Research Conference. Washington DC, USA, 2014. 11.13-14 (口演)
11. Endo F, Komine O, Wyss-Coray T, Yamanaka K. Astrocyte-derived TGF-β1 accelerates disease progression in ALS mice by interfering with neuroprotective functions of microglia and T cells. 9th FENS Forum of Neuroscience. Milan, Italy, 2014. 7. 5-9. (poster)
12. Komine O, Yamashita H, Fujimori-Tonou N, Moriwaki Y, Endo F, Watanabe S, Misawa H and Yamanaka K. The role of the infiltrating immune cells attracted by activated microglia in amyotrophic lateral sclerosis mice. 9th Brain Research Conference. Washington DC, USA, 2014. 11.13-14. (poster)
13. Komine O, Yamashita H, Fujimori-Tonou N, Moriwaki Y, Endo F, Watanabe S, Misawa H and Yamanaka K. The role of the infiltrating immune cells attracted by activated microglia in amyotrophic lateral sclerosis mice. Neuroscience 2014 Annual Meeting,

Washington DC, USA, 2014. 11-15-19. (poster)

14. Endo F, Komine O, Wyss-Coray T, Yamanaka K. Astrocyte-derived TGF-β1 accelerates disease progression in ALS mice by interfering with the neuroprotective functions of microglia and T cells. 25th International Symposium on ALS/MND. Brussel, Belgium, 2014. 12. 5-7. (poster)
15. Chhangani D, Yamanaka K, Mishra A. Mahogunin Ring Finger Protein 1, Ubiquitin-protein Ligase Confers Neuroprotection Against Misfolded Protein Aggregation And Toxicity. 25th International Symposium on ALS/MND. Brussel, Belgium, 2014. 12. 5-7. (poster)
16. Watanabe S, Wakasugi K, Yamanaka K. Coordinated activation of autophagy and Cathepsin-mediated proteolysis inhibition is essential for neuroprotection by Cystatin C against mutant SOD1-mediated toxicity. 25th International Symposium on ALS/MND. Brussel, Belgium, 2014. 12. 5-7. (poster)
17. 遠藤史人、山中宏二. 筋萎縮性側索硬化症における神経炎症. 第 55 回日本神経学会学術大会, 福岡, 2014.5.21-24 (シンポジウム)
18. 小峯起ら. 筋萎縮性側索硬化症における浸潤免疫細胞の機能解明. 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13. (シンポジウム)
19. 渡邊征爾ら. 変異 SOD1 由来の毒性に対するシスタチン C の神経細胞保護機構の解明, 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13. (口演)
20. 遠藤史人ら. ALS マウスの疾患進行におけるアストロサイト由来 TGF-β1 の役割, 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13. (ポスター)
21. 森﨑祐太ら. オステオポンチンはマウス脊髄における α 運動ニューロンサブタイプの新規マーカーである. 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13. (口演)
22. 山下博史ら. 細胞特異的トランスクリプトームを用いた、孤発性 ALS 患者脊髄の DNA マイクロアレイによる解析. 第 37 回日本神経科学大会, 横浜, 2014.9.11-13. (ポスター)
23. 大西晃輔ら. オステオポンチンはグリア細胞の活性化を促進し, 筋萎縮性側索硬化症の病態形成に関与する. 第 87 回日本薬理学会年会, 仙台, 2014.3.19-21. (ポスター)
24. 岩崎愛里ら. 筋萎縮性側索硬化症モデルマウスにおけるアクアポリン 4 の発現変動. 第 134 回日本薬学会年会, 熊本, 2014.3.27-30. (ポスター)

H. 知的所有権の取得状況 (予定を含む)

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

厚生労働科学研究委託費　難治性疾患等克服研究事業（難治性疾患等実用化研究事業（難治性疾患実用化研究事業））
「筋萎縮性側索硬化症（ALS）新規治療法開発をめざした病態解明」

分担研究報告書

TDP-43 断片の exosome への選択的取り込みについて

研究分担者：横田隆徳 1)
研究協力者：阿部圭輔 1)，田尻美緒 1)，由井大錦 1)，町田　明 2)，
笹栗弘貴 3)，大久保卓哉 1)

1）東京医科歯科大学大学院 脳神経病態学
2）土浦協同病院 神経内科
3）中野総合病院 神経内科

研究要旨
筋萎縮性側索硬化症(ALS)の原因蛋白質であるTDP-43を主要構成成分とする細胞質封入体は運動神経細胞死に関連し、病的性質を持ったTDP-43がcell-to-cellに拡がると考えられている。本研究では細胞外に放出される微小胞であるexosome内にTDP-43断片が選択的に存在することを明らかにし、それがin vivoでマウス脳の神経細胞内に取り込まれることを証明した。ALSの病態進展にexosomeが深く関与している事を示唆している。

A. 研究目的

筋萎縮性側索硬化症(Amyotrophic Lateral Sclerosis: ALS)における電気生理学的及び病理学的検索から、疾患の進展の機序の一つとして運動神経細胞死が発症部位から連続的に拡がっていることが示唆されるが、同時に非連続的伝播している事を疑わせる所見も報告されている．運動神経細胞死に関与するTDP-43を主要構成成分とする細胞質封入体は隣接する培養細胞間で伝播することが示されているが、遠隔的な伝播についての機序は解明されていない。

我々は、内部にmRNAやmiRNA、蛋白質などを含み細胞間コミュニケーションを担っている微小胞であるexosomeがTDP-43病理の遠隔的な伝播に関与していると考え、exosomeへのTDP-43及びその断片の取り込みについて実験を行った。

B. 研究方法

マウス神経芽細胞腫Neuro2aに野生型humanTDP-43 (hTDP-43 WT)及びC末端側にGFPやFlagなどのタグを挿入したhTDP-43を過剰発現させ、Western blot法で培養細胞の上清中に分泌されたexosome中のhTDP-43及びその断片の取り込みを調べた。同時に核、細胞質分画の抽出を行い、exosome内との分布の相違を確認した。

さらにC末端側にFlagを挿入したTDP-43-flagを過剰発現させたNeuro2aの上清から抽出したexosomeをマウス脳へ接種し、接種したTDP-43-Flagが神経細胞内へ取り込まれるかをFlag染色にて免疫組織学的に検索した。

C. 研究結果

hTDP-43 WTを過剰発現させた場合、exosome内には全長TDP-43よりも約32kDaのTDP-43C末端断片が多く含まれ、 核及び細胞質での全長TDP-43優位の分布とは異なるものだった。またexosome内の約32kDaのTDP-43断片は1% Sarcosyl不溶性分画に存在し、約25kDaの断片も少量認められた。C末端側にGFPをつけたhTDP-43を過剰発現させると、細胞内には全長のhTDP-43-GFPに加えhTDP-43を過剰発現させた時に存在した32kDa及び25kDaに相当するC末端断片が出現し、exosome内には32kDaに相当する断片が選択的に取り込まれていた。

hTDP-43-Flagを過剰発現させたNeuro2aから回収したexosomeをマウス脳の前頭葉の運動野に接種すると、接種部位の近傍にFlag染色で細胞質全体が淡く染まる細胞を確認した。さらに反対側の運動野に相当する部位にもneuropilと思われるFlag陽性の構造物を認めた。

D. 考察

exosomeは細胞質で形成される微小胞であり、細胞質では全長TDP-43が優位であるのに対しexosome内ではその断片が多いことは、exosomeへのなんらかの選択的取り込みもしくはexosome内で断片形成される機序があることを示唆している。exosome内のC末端断片は不溶化しており、これがexosomeを介して他の細胞内に取り込まれた場合、内因性のTDP-43を巻き込んで凝集するseedとして機能する可能性があると考えられる。

マウス脳の神経細胞でflag陽性の 神経細胞が確認出来た事は、in vivoでexosomeを介してTDP-43もしくはそのC末端断片がcell-to-cellに伝播した可能性があることを示している。さらにそれが反対側の運動野に運ばれていることは神経経路に沿った進展(regional spread)も起きていると考えられる。

E. 結論

Exosomeの形成過程で不溶性のTDP-43断片が存在することが示された。また、Exosome内にTDP-43断片が含まれ、TDP-43病理がexosomeを介して細胞間を遠隔的に伝播する可能性があることが示された。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1. 関口輝彦, 阿部圭輔, 大久保卓哉, 叶内匡, 横田隆徳. 編集:鈴木則宏, 祖父江元, 荒木信夫, 宇川義一, 川原信隆. Basic Neuroscience　生化学・分子生物学 筋萎縮性側索硬化症(ALS)における疾患の発症と病態進展機序. In: Annual Review 神経 2014 神経. 中外医学社, 東京, 2014: 27-36.

2. 学会発表

1. Abe K, Namatame T, Tajiri M, Yui D, Ohkubo　T, Yokota　T. Selective uptake of C-terminal fragments of TDP-43 into exosome. The 37th Annual Meeting of the Japan Neuroscience Society, Yokohama. 2014. 9. 12.

H. 知的所有権の取得状況（予定を含む）

1. 特許取得

該当なし

2. 実用新案登録

該当なし

Ⅲ. 研究成果刊行一覧

研究成果の刊行に関する一覧表

発表者名	論文タイトル	発表誌	巻・号	ページ	出版年
Sato H, Arawaka S, Wada M, Kawanami T, Tanaka F, Sobue G, Emi M, Kato T.	Segmental copy number loss of the PCSK6 gene in sporadic amyotrophic lateral sclerosis.	*Curr Trends Neurol*			*in press*
Imai K, Karasaki H, Ono Y, Sasajima J, Chiba S, Funakoshi H, Muraki M, Hanaoka H, Furukawa T, Furukawa H, Kono T. Nagashima K and Mizukami Y.	Metachronous pancreatic cancer originating from disseminated founder pancreatic intraductal neoplasias (PanINs).	*The Journal of Pathology: Clinical Research*			*in press*
Okatsu K, Koyano F, Kimura M, Kosako H, Saeki Y, Tanaka K, Matsuda N.	Phosphorylated ubiquitin chain is the genuine Parkin receptor.	*J Cell Biol*			2015 *in press*
Okatsu K, Kimura M, Oka T, Tanaka K, Matsuda N.	Unconventional PINK1 localization mechanism to the outer membrane of depolarized mitochondria drives Parkin recruitment.	*J Cell Sci*			2015 *in press*
Watanabe H, Atsuta N, Nakamura R, Hirakawa A, Watanabe H, Ito M, Senda J, Katsuno M, Izumi Y, Morita M, Tomiyama H, Taniguchi A, Aiba I, Abe K, Mizoguchi K, Oda M, Kano O, Okamoto K, Kuwabara S, Hasegawa K, Imai T, Aoki M, Tsuji S, Nakano I, Kaji R, Sobue G.	Factors affecting longitudinal functional decline and survival in amyotrophic lateral sclerosis patients.	Amyotrophic Lateral Sclerosis and Frontotemporal Degeneration	[Epub ahead of print]		2014 *in press*
Fujioka M, Okano H, Edge AS.	Manipulating cell fate in the cochlea: a feasible therapy for hearing loss.	*Trends Neurosci*	[Epub ahead of print]		2015
Iida M, Katsuno M, Nakatsuji H, Adachi H, Kondo N, Miyazaki Y, Tohnai G, Ikenaka K, Watanabe H, Yamamoto M, Kishida K, Sobue G.	Pioglitazone suppresses neuronal and muscular degeneration caused by polyglutamine-expanded androgen receptors.	*Human Molecular Genetics.*	24(2)	314-29	2015

Morimoto D, Walinda E, Fukada H, Sou YS, Kageyama S, Hoshino M, Fujii T, Tsuchiya H, Saeki Y, Arita K, Ariyoshi M, Tochio H, Iwai K, Namba K, Komatsu M, Tanaka K, Shirakawa M.	The unexpected role of polyubiquitin chains in the formation of fibrillar aggregates.	*Nat Commun*	doi: 10.103 8/ncom ms7116		2015
Abe K, Itoyama Y, Sobue G, Tsuji S, Aoki M, Doyu M, Hamada C, Kondo K, Yoneoka T, Akimoto M, Yoshino H.	Confirmatory double-blind, parallel-group, placebo-controlled study of efficacy and safety of edaravone (MCI-186) in amyotrophic lateral sclerosis patients.	*Amyotroph Lateral Scler Frontotempo ral Degener*	15	610-7	2014
Akimoto C, Volk AE, van Blitterswijk M, Van den Broeck M, Leblond CS, Lumbroso S, Camu W, Neitzel B, Onodera O, van Rheenen W, Pinto S, Weber M, Smith B, ProvenM, Talbot K, Keagle P, Chesi A, Ratti A, van der Zee J, Alstermark H, Birve A, Calini D, Nordin A, Tradowsky DC, Just W, Daoud H, Angerbauer S,DeJesus-Hernandez M, Konno T, Lloyd-Jani A, de Carvalho M, Mouzat K, Landers JE, Veldink JH, Silani V, Gitler AD, Shaw CE, Rouleau GA, van den Berg LH, Van Broeckhoven C, Rademakers R, Andersen PM, Kubisch C.	A blinded internationalstudy on the reliability of genetic testing for GGGGCC-repeat expansions in C9orf72 reveals marked differences in results among 14 laboratories.	*J Med Genet*	51(6)	419-24	2014
Arawaka S, Fukushima S, Sato H, Sasaki A, Koga K, Koyama S, Kato T.	Zonisamide attenuates α-synuclein neurotoxicity by an aggregation-independent mechanism in a rat model of familial pakinson's disease.	*PLoS One*	9・2	e89076	2014
Asada A, Yamazaki R, Kino Y, Saito T, Kimura T, Miyake M, Hasegawa M, Nukina N, Hisanaga S.	Cyclin-dependent kinase 5 phosphorylates and induces the degradation of ataxin-2.	*Neurosci Let*	563	112-7	2014
Austin JA, Wright GSA, Watanabe S, Grossmann JG, Antonyuk SV, Yamanaka K, Hasnain SS.	Aggregation resistant TDP-43 RRM domain disease mutants have increased stability and half-life.	*PNAS*	111	4309 -14	2014

Baborie A, Griffiths TD, Jaros E, Perry R, McKeith IG, Burn DJ, Masuda-Suzukake M, Hasegawa M, Rollinson S, Pickering-Brown S, Robinson AC, Davidson YS, Mann DM.	Accumulation of dipeptide repeat proteins predates that of TDP-43 in Frontotemporal Lobar Degeneration associated with hexanucleotide repeat expansions in C9ORF72 gene.	*Neuropathol Appl Neurobiol*	doi: 10.1111 /nan.12 178. [Epub ahead of print]		2014
Benkhoucha M, Molnarfi N, Dunand-Sauthier I, Merkler D, Schneiter G, Bruscoli S, Riccardi C, Tabata Y, Funakoshi H, Nakamura T, Reith W, Santiago-Raber M-L, and Lalive P.	Hepatocyte growth factor limits autoimmune neuroinflammation via GILZ expression in dendritic cells.	*J. Immunol*	193(6)	2743 -2752	2014
Bessede A, Gargaro M, Pallotta MT, Matino D, Servillo G, Brunacci C, Bicciato S, Mazza EM, Macchiarulo A, Vacca C, Iannitti R, Tissi L, Volpi C, Belladonna ML,Orabona C, Bianchi R, Lanz TV, Platten M, Della Fazia MA, Piobbico D, Zelante T, Funakoshi H, Nakamura T, et al.,	Aryl hydrocarbon receptor control of a disease tolerance defence pathway.	*Nature*	511	184 -190	2014
Davidson YS, Barker H, Robinson AC, Thompson JC, Harris J, Troakes C, Smith B, Al-Saraj S, Shaw C, Rollinson S, Masuda-Suzukake M, Hasegawa M, Pickering-Brown S, Snowden JS, Mann DM.	Brain distribution of dipeptide repeat proteins in frontotemporal lobar degeneration and motor neurone disease associated with expansions in C9ORF72.	*Acta Neuropathol Commun*	2	70	2014
Hasegawa M, Watanabe S, Kondo H, Akiyama H, Mann DM, Saito Y, Murayama S.	3R and 4R tau isoforms in paired helical filaments in Alzheimer's disease.	*Acta Neuropathol*	127	303 -305	2014
Honda D, Ishigaki S, Iguchi Y, Fujioka Y, Udagawa T, Masuda A, Ohno K, Katsuno M, Sobue G	The ALS/FTLD-related RNA-binding proteins TDP-43 and FUS have common downstream RNA targets in cortical neurons.	*FEBS Open Biology*	20(4)	1-10	2014
Iseki C, Takahashi Y, Wada M, Kawanami T, Adachi M, Kato T.	Incidence of idiopathic normal pressure hydrocephalus (iNPH): a 10-year follow-up study of a rural community in Japan.	*J Neurol Sci*	339 ・1-2	108 -112	2014

Ishihara T, Kakita A, Takahashi H, Onodera O, Nishizawa M.	Aberration of the spliceosome in amyotrophic lateral sclerosis.	*Rinsho Shinkeigaku*	54(12)	1155-7	2014
Kageyama S, Sou Y.S, Uemura T, Kametaka S, Saito T, Ishimura R, Kouno T, Bedford L, Mayer R.J, Lee M.S, Yamamoto M, Waguri S, Tanaka K, and Komatsu M.	Proteasome dysfunction activates autophagy and the Keap1-Nrf2 pathway.	*J Biol Chem*	289	24944 -24955	2014
Kato S, Takikawa M, Ishihara S, Yokoyama A, Kato M.	Pathologic reappraisal in Wallenberg syndrome: pathologic distribution.	*Yonago Acta med*	57	1-14	2014
Kawakami I, Hasegawa M, Arai T, Ikeda K, Oshima K, Niizato K, Aoki N, Omi K, Higashi S, Hosokawa M, Hirayasu Y, Akiyama H.	Tau accumulation in the nucleus accumbens in tangle-predominant dementia.	*Acta Neuropathol Commun*	2	40	2014
Kawakami N, Komatsu K, Yamashita H, Uemura K, Oka N, Takashima H, Takahashi R.	A novel mutation in glycyl-tRNA synthetase caused Charcot-Marie-Tooth disease type 2D with facial and respiratory muscle involvement.	*Rinsho Shinkeigaku*	54	911	2014
Kimura T, Jiang H, Konno T, Seto M, Iwanaga K, Tsujihata M, Satoh A, Onodera O, Kakita A, Takahashi H.	Bunina bodies in motor and non-motor neurons revisited: a pathological study of an ALS patient after long-term survival on a respirator.	*Neuropathology*	34(4)	392-7	2014
Kitamura K, Iwanami A, Fujiyoshi K, Yamane J, Hikishima K, Funakoshi H, Nakamura T, Aoki M, Toyama Y, Okano H, Nakamura M.	Recombinant human hepatocyte growth factor promotes functional recovery after spinal cord injury.	*Neuroprotection and Regeneration of the spinal cord (Springer)*	511	184 -190	2014
Kondo T, Funayama M, Tsukita K, Hotta A, Yasuda A, Nori S, Kaneko S, Nakamura M, Takahashi R, Okano H, Yamanaka S, Inoue H.	Focal Transplantation of Human iPSC-Derived Glial-Rich Neural Progenitors Improves Lifespan of ALS Mice.	*Stem Cell Reports*	12;3(2)	242-9	2014
Konno T, Tada M, Shiga A, Tsujino A, Eguchi H, Masuda-Suzukake M, Hasegawa M, Nishizawa M, Onodera O, Kakita A, Takahashi H.	C9ORF72 repeat-associated non-ATG-translated polypeptides are distributed independently of TDP-43 in a Japanese patient with c9ALS.	*Neuropathol Appl Neurobiol*	40(6)	783-8	2014

Koyano F, Okatsu K, Kosako H, Tamura Y, Go E, Kimura M, Kimura Y, Tsuchiya H, Yoshihara H, Hirokawa T, Endo T, Fon E.A, Trempe J.F, Saeki Y, Tanaka K, and Matsuda N.	Ubiquitin is phosphorylated by PINK1 to activate parkin.	*Nature*	510	162 -166	2014
Kuwako K, Nishimoto Y, Kawase S, Okano HJ, Okano H.	Cadherin-7 Regulates Mossy Fiber Connectivity in the Cerebellum.	*Cell Rep*	9;9(1)	311-23	2014
Matsuzaki Y, Mabuchi Y, Okano H.	Leptin Receptor Makes Its Mark on MSCs.	*Cell Stem Cell*	7;15(2)	112-4	2014
Maeta A, Sano M, Fukuwatari T, Funakoshi H, Nakamura T, and Shibata K.	Contributions of Tryptophan 2,3-dioxygenase and Indoleamine 2,3-dioxygenase to the Conversion of D-Tryptophan to Nicotinamide Analyzed by using Tryptophan 2,3-dioxygenase -Knockout Mice.	*Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry*	78(5)	878 -881	2014
Masuda-Suzukake M, Nonaka T, Hosokawa M, Kubo M, Shimozawa A, Akiyama H, Hasegawa M.	Pathological alpha-synuclein propagates through neural networks.	*Acta Neuropathol Commun*	2	88	2014
Matsumoto K, Funakoshi H, Takahashi H, and Sakai K.	HGF-Met Pathway in Regeneration and Drug Discovery.	*Biomedicines*	2	275 -300	2014
Mizuno M, Ueki Y, Sakurai K, Okita K, Endo F, Yamanaka K, Morita M, Matsukawa N.	A case of familial Amyotrophic Lateral Sclerosis showing gadolinium-enhanced cranial nerves in MRI associated with rapid progression of facial nerve palsy.	*Neurology and Clinical Neuroscience*	2	54-56	2014
Mochizuki Y, Kawata A, Maruyama H, Homma T, Watabe K, Kawakami H, Komori T, Mizutani T, Matsubara S.	A Japanese patient with familial ALS and a p.K510M mutation in the gene for FUS (FUS) resulting in the totally locked-in state.	*Neuropathology*	34・5	504-9	2014
Mochizuki Y, Kawata A, Hashimoto T, Akiyama H, Kawakami H, Komori T, Oyanagi K, Mizutani T, Matsubara S.	An autopsy case of familial amyotrophic lateral sclerosis with FUS R521G mutation.	*Amyotroph Lateral Scler Frontotemporal Degener*	15・3-4	305-8	2014
Molnarfi N, Benkhoucha M, Funakoshi H, Nakamura T, Lalive PH.	Hepatocyte growth factor: a regulator of inflammation and autoimmunity.	*Autoimmunity Reviews*	270	179 -195	2014

Murota Y, Ishizu H, Nakagawa S, Iwasaki YW, Shibata S, Kamatani MK, Saito K, Okano H, Siomi H, Siomi MC.	Yb Integrates piRNA Intermediates and Processing Factors into Perinuclear Bodies to Enhance piRISC Assembly.	*Cell Rep*	10;8(1)	103-13	2014
Numasawa-Kuroiwa Y, Okada Y, Shibata S, Kishi N, Akamatsu W, Shoji M, Nakanishi A, Oyama M, Osaka H, Inoue K, Takahashi K, Yamanaka S, Kosaki K, Takahashi T, Okano H.	Involvement of ER Stress in Dysmyelination of Pelizaeus-Merzbacher Disease with PLP1 Missense Mutations Shown by iPSC-Derived Oligodendrocytes.	*Stem Cell Reports*	24;2(5)	648-61	2014
Pack Chan-Gi, Yukii H, Toh-e A, Kudo T, Tsuchiya H, Kaiho A, Sakata E, Murata S, Yokosawa H, Sako Y, Baumeister W, Tanaka K, and Saeki Y.	Quantitative live-cell imaging reveals molecular dynamics and cytoplasmic assembly of the 26S proteasome.	*Nat Commun*	doi: 10.1038/ncomm4396		2014
Riku Y, Atsuta N, Yoshida M, Tatsumi S, Iwasaki Y, Mimuro M, Watanabe H, Ito M, Senda J, Nakamura R, Koike H, Sobue G.	Differential motor neuron involvement in progressive muscular atrophy: a comparative study with amyotrophic lateral sclerosis.	*BMJ Open*	4(5)		2014
Riku Y, Watanabe H, Yoshida M, Tatsumi S, Mimuro M, Iwasaki Y, Katsuno M, Iguchi Y, Masuda M, Senda J, Ishigaki S, Udagawa T, Sobue G.	Lower motor neuron involvement in TAR DNA-binding protein of 43 kDa-related frontotemporal lobar degeneration and amyotrophic lateral sclerosis.	*JAMA Neurology*	71(2)	172-9	2014
Sasaki S, Yamashita T, Hideyama T, Kwak S.	Unique nuclear vacuoles in the motor neurons of conditional ADAR2-knockout mice.	*Brain Res*	1550	536 -546	2014
Sato H, Kato T, Arawaka S.	Potential of cellular and animal models based on a prion-like propagation of α-synuclein for assessing antiparkinson agents.	*Mol Neurobiol*	Aug 21 [Epub ahead of print]		2014
Sato K, Morimoto N, Deguchi K, Ikeda Y, Matsuura T, Abe K.	Seven amyotrophic lateral sclerosis patients diagnosed only after development of respiratory failure.	*J Clin Neurosci*	21	1341-3	2014
Too LK, McQuillan J, Ball H, Kanai M, Nakamura T, Funakoshi H, McGregor I, Hunt N.	The kynurenine pathway contributes to long-term neuropsychological changes in experimental pneumococcal meningitis.	*Behavioural Brain Research*	270	179 -195	2014

Wakabayashi K, Mori F, Kakita A, Takahashi H, Utsumi J, Sasaki H.	Analysis of microRNA from archived formalin-fixed paraffin-embedded specimens of amyotrophic lateral sclerosis.	*Acta Neuropathol Commun*	2(1)	173	2014
Watanabe S, Hayakawa T, Wakasugi K, Yamanaka K.	Cystatin C protects neuronal cells against mutant copper-zinc superoxide dismutase-mediated toxicity.	*Cell Death and Disease*	5	e1497	2014
Watanabe S, Ageta-Ishihara N, Nagatsu S, Takao K, Miyakawa T, Misawa H, Takahashi R, Kinoshita M, Yamanaka K.	SIRT1 overexpression ameliorates a mouse model of SOD1-linked amyotrophic lateral sclerosis via HSF1/HSP70i chaperone system.	*Molecular Brain*	7	62	2014
Yamashita M, Nonaka T, Hirai S, Miwa A, Okado H, Arai T, Hosokawa M, Akiyama H, Hasegawa M.	Distinct pathways leading to TDP-43-induced cellular dysfunctions.	*Hum Mol Genet*	23	4345 -56	2014.
Yamashita T, Kwak S.	The molecular link between inefficient GluA2 Q/R site-RNA editing and TDP-43 pathology in motor neurons of sporadic amyotrophic lateral sclerosis patients.	*Brain Res*	1584	28-38	2014
Yokoyama A, Ohno K, Hirano A, Shintaku M, Kato M, Hayashi K, Kato S.	Cerebellar expression of copper chaperone for superoxide, cytosolic Cu/Zn-superoxide dismutase, 4-hydroxy-2-nonenal, acrolein and heat shock protein 32 in patients with Menkes Kinky hair disease: immunohistochemical study.	*Yonago Acta med.*	57	23-35	2014
Yoshida T, Ozawa Y, Suzuki K, Yuki K, Ohyama M, Akamatsu W, Matsuzaki Y, Shimmura S, Mitani K, Tsubota K, Okano H.	The use of induced pluripotent stem cells to reveal pathogenic gene mutations and explore treatments for retinitis pigmentosa.	*Mol Brain*	16;7(1)	45	2014
Zhou Z, Kohda K, Ibata K, Kohyama J, Akamatsu W, Yuzaki M, Okano HJ, Sasaki E, Okano H.	Reprogramming non-human primate somatic cells into functional neuronal cells by defined factors.	*Mol Brain*	3;7	24	2014

清水範彦、島田（大谷）若菜、角山圭一、早川寿行、千葉博信、Sun Woong、中村敏一、船越 洋	神経特異的 HGF 遺伝子発現は ALS モデル Tg マウスの運動神経変性とグリオーシスを抑制し寿命を延長する	日本実験動物技術者協会北海道支部会誌			印刷中
早川寿行、千葉博信、日野千紘、鮫澤俊則、笹谷大輔、清水範彦、島田（大谷）若菜、船越洋	イベルメクチン噴霧とパモ酸ピランテル添加飼料のタンデム療法によるラット蟯虫駆除成功例の報告	日本実験動物技術者協会北海道支部会誌			印刷中
瓦井俊孝	新規運動ニューロン病遺伝子 TFG の機能解析	ブレインサイエンス・レビュー 2015	第 1 版第 1 刷	79-90	2015
瓦井俊孝、森垣龍馬、沖良祐、和泉唯信、後藤惠、梶 龍兒	ALS and TFG	神経内科	印刷中	印刷中	2015
遠藤史人、山中宏二	筋萎縮性側索硬化症におけるグリア病態・神経炎症	医学のあゆみ	248	901-905	2014
小峯起、山中宏二	グリア–末梢免疫組織連関からみた神経変性機序の解明 –筋萎縮性側索硬化症を中心として–	遺伝子医学 MOOK	26	84-89	2014
関口輝彦、阿部圭輔、大久保卓哉、叶内匡、横田隆徳 編集：鈴木則宏、 祖父江元、 荒木信夫、 宇川義一、 川原信隆.	Basic Neuroscience 生化学・分子生物学 筋萎縮性側索硬化症(ALS)における疾患の発症と病態進展機序.	Annual Review 神経 2014	—	27-36	2014
中村正雄、住友和弘、阿久津弘明、福山秀青、山村祐司、久木田新、佐藤孔亮、長内忍、船越洋、長谷部直幸	針葉樹林の香りは容易にヒトへ移行する	AROMA RESEARCH	No.59 2014/8 月号（vol.15/No.3）	56-61	2014
山下雄也、郭 伸	TDP-43 病理形成メカニズム	Dementia Japan	28	307-318	2014
山下雄也、郭 伸	TDP-43 病理形成メカニズムにおける TDP-43 のカルパイン依存性断片化の意義	臨床神経学	54	1151 -1154	2014
山中宏二	マクロファージとは似て非なる細胞ミクログリアと神経変性疾患	細胞工学	33	1251-55	2014
渡邊征爾、山中宏二	グリア細胞と神経変性	Brain Medical	126	237-241	2014

JMG Online First, published on April 4, 2014 as 10.1136/jmedgenet-2014-102360

OPEN ACCESS

ORIGINAL ARTICLE

A blinded international study on the reliability of genetic testing for GGGGCC-repeat expansions in *C9orf72* reveals marked differences in results among 14 laboratories

Chizuru Akimoto,[1] Alexander E Volk,[2] Marka van Blitterswijk,[3] Marleen Van den Broeck,[4,5] Claire S Leblond,[6] Serge Lumbroso,[7] William Camu,[8] Birgit Neitzel,[9] Osamu Onodera,[10] Wouter van Rheenen,[11] Susana Pinto,[12] Markus Weber,[13] Bradley Smith,[14] Melanie Proven,[15] Kevin Talbot,[16] Pamela Keagle,[17] Alessandra Chesi,[18] Antonia Ratti,[19,20] Julie van der Zee,[4,5] Helena Alstermark,[1] Anna Birve,[1] Daniela Calini,[19,20] Angelica Nordin,[1] Daniela C Tradowsky,[2] Walter Just,[2] Hussein Daoud,[6] Sabrina Angerbauer,[9] Mariely DeJesus-Hernandez,[3] Takuya Konno,[10] Anjali Lloyd-Jani,[15] Mamede de Carvalho,[12] Kevin Mouzat,[7] John E Landers,[17] Jan H Veldink,[11] Vincenzo Silani,[19,20] Aaron D Gitler,[18] Christopher E Shaw,[14] Guy A Rouleau,[6] Leonard H van den Berg,[11] Christine Van Broeckhoven,[4,5] Rosa Rademakers, Peter M Andersen,[1,21] Christian Kubisch[2]

▸ Additional material is published online only. To view please visit the journal online (http://dx.doi.org/10.1136/jmedgenet-2014-102360).

For numbered affiliations see end of article.

Correspondence to
Dr Peter M Andersen, Department of Pharmacology and Clinical Neuroscience, Umeå University, Umeå SE-90185, Sweden; peter.andersen@neuro.umu.se

CA and AEV wish it to be known that, in their opinion, the first two authors should be regarded as joint first authors. PMA and CK wish it to be known that, in their opinion, the last two authors should be regarded as joint last authors.

Received 13 February 2014
Accepted 10 March 2014

To cite: Akimoto C, Volk AE, van Blitterswijk M, *et al*. *J Med Genet* Published Online First: [*please include* Day Month Year] doi:10.1136/jmedgenet-2014-102360

ABSTRACT

Background The GGGGCC-repeat expansion in *C9orf72* is the most frequent mutation found in patients with amyotrophic lateral sclerosis (ALS) and frontotemporal dementia (FTD). Most of the studies on *C9orf72* have relied on repeat-primed PCR (RP-PCR) methods for detection of the expansions. To investigate the inherent limitations of this technique, we compared methods and results of 14 laboratories.

Methods The 14 laboratories genotyped DNA from 78 individuals (diagnosed with ALS or FTD) in a blinded fashion. Eleven laboratories used a combination of amplicon-length analysis and RP-PCR, whereas three laboratories used RP-PCR alone; Southern blotting techniques were used as a reference.

Results Using PCR-based techniques, 5 of the 14 laboratories got results in full accordance with the Southern blotting results. Only 50 of the 78 DNA samples got the same genotype result in all 14 laboratories. There was a high degree of false positive and false negative results, and at least one sample could not be genotyped at all in 9 of the 14 laboratories. The mean sensitivity of a combination of amplicon-length analysis and RP-PCR was 95.0% (73.9–100%), and the mean specificity was 98.0% (87.5–100%). Overall, a sensitivity and specificity of more than 95% was observed in only seven laboratories.

Conclusions Because of the wide range seen in genotyping results, we recommend using a combination of amplicon-length analysis and RP-PCR as a minimum in a research setting. We propose that Southern blotting techniques should be the gold standard, and be made obligatory in a clinical diagnostic setting.

INTRODUCTION

In 2011, an expansion of a GGGGCC-repeat in the gene 'Chromosome 9 open reading frame 72' (*C9orf72*) was identified as a cause of amyotrophic lateral sclerosis (ALS, OMIM614260) and frontotemporal dementia (FTD, OMIM105550).[1 2] The following 3-years series of publications reported that a large proportion of ALS (1–30%) and FTD (6–30%) Caucasian patients carry a *C9orf72* repeat expansion,[3–5] making this mutation the most common known genetic cause of ALS and FTD, and one of the most frequent genetic alterations causing neurodegenerative diseases overall. In one of the initial reports, a combination of amplicon-length analysis, repeat-primed PCR (RP-PCR) assays, and Southern blot (SB) was used for detection and calculation of the repeat numbers.[1] SB is regarded as the gold standard for detecting large polynucleotide repeat expansions,[6] but it is relatively expensive, cumbersome and time consuming, and up to 10 μg of high-quality DNA is needed for a single analysis. It is not surprising, therefore, that in nearly all studies published during 2011–2013, the much simpler, cheaper and faster-to-perform PCR-based screening methods were used.[2] By using amplification primers flanking the repeat motif, the amplicon-length analysis allows determination of the exact repeat numbers of alleles with up to 30 repeats, and thus, is able to exclude a pathological repeat expansion if two different alleles in the wild-type range are detected. In RP-PCR, at least two primers are used: one primer that hybridises outside the repeat motif, and one primer that binds to the repeat motif itself. In most protocols a third

primer is applied that hybridises to an oligonucleotide tail of the repeat motif binding primer, also leading to the term triplet-primed PCR.[7] In this RP-PCR, a large GGGGCC-repeat expansion typically gives rise to a 'saw-tooth' or 'stutter' pattern, which has been taken as evidence for the presence of a disease-associated expansion.[1 2] Since the first reports of this mutation, a large number of studies have reported on the epidemiology, clinical, psychological and imaging features, and postmortem neuropathology of *C9orf72* repeat expansion carriers with ALS, FTD, Alzheimer disease, Parkinson's disease, and other neurodegenerative diseases, as well as in healthy individuals.[8] In many of these studies, the *C9orf72*-genotype was assessed using RP-PCR alone without a confirmatory SB analysis. Only recently, large-scale studies using SB analysis have been published.[9 10] PCR-based *C9orf72* screening is also used in clinical diagnostic testing of affected individuals, as well as in predictive testing of healthy individuals at-risk of ALS and FTD. The aim of this study is to determine the sensitivity and specificity of different *C9orf72* genotyping methods, and to establish recommendations for molecular testing of the GGGGCC-repeat expansion in *C9orf72*. Fourteen experienced genetic laboratories participated in this study, and all laboratories were requested to perform RP-PCR with or without amplicon-length analyses on the same 78 samples.

MATERIALS AND METHODS

Study design

At the initiative of the ALS research laboratory at Umeå University, Sweden, 20 laboratories with extensive experience in performing DNA analysis for neurodegenerative diseases, including ALS and FTD, were invited to participate in this study. Eleven research laboratories and two diagnostic laboratories agreed to participate, and including Umeå University a total of 14 laboratories participated. Umeå University sent 400 ng DNA from 78 familial ALS or FTD cases to 13 laboratories: eight in Europe, four in North America, and one in Asia. All participating research laboratories had already established the methodologies for identifying the GGGGCC-repeat expansion in *C9orf72* and published at least one manuscript regarding *C9orf72*. Each laboratory was asked to analyse the 78 DNA samples according to their own procedures and classify the results. Umeå University collected all results independently and analysed them in a blinded fashion. Eleven laboratories used RP-PCR and amplicon-length analysis, and three laboratories used RP-PCR alone. Independently to RP-PCR and amplicon-length analysis, SB was performed in three laboratories.

Patients and DNA extraction

Blood samples of 78 familial ALS or FTD patients from 32 families living in the Nordic countries, Switzerland and Portugal were collected. The sex ratio was 1.75 males per female. The ALS patients were diagnosed according to the EFNS consensus diagnostic criteria,[11] and the FTD patients according to the Neary criteria.[12] Autopsies were performed in 13 patients confirming the diagnosis of ALS or FTD neuropathologically. Whole venous blood was drawn into EDTA-containing vacuum tubes and following centrifugation, the buffy coat was isolated. The samples were collected during the time period 1993–2012 and stored as buffy coat in −80°C freezers until DNA extraction. The DNA was extracted according to the manufacturer's protocol with the DNA extraction kit NUCLEON BACC2 (GE Healthcare, Piscataway, New Jersey, USA) and DNA from the same extraction batch was sent to all laboratories. Ethical review boards in Sweden (The Regional Medical Review Board for Northern Sweden), Switzerland (Ethikkomission des Kantons St Gallen), and Portugal (Hospital de Santa Maria Ethics Committee, Lisbon) approved this study, and all participants gave informed written consent.

RP-PCR, amplicon-length analyses, and SB

The RP-PCR and amplicon-length analyses were done according to each laboratory's own method, and these are listed in online supplementary table S3. The SB protocols are listed in online supplementary table S5.

RESULTS

Genotyping results: comparison of the results in 14 laboratories

The overall results of 14 laboratories (laboratory A–N) are presented in table 1. When combining amplicon-length analysis and RP-PCR, sensitivity and specificity above 95% were found in seven laboratories (A–E, G and L; 50%). The mean sensitivity of the combined results was 95.0% (73.9–100%), and the mean specificity was 98.0% (87.5–100%). Using RP-PCR analysis alone, a sensitivity and specificity of more than 95% were found in six laboratories (A–D, G and L; 42.9%). The mean sensitivity of RP-PCR alone was 94.3% (71.7–100%) and the mean specificity was 97.3% (87.5–100%). The classification determined by RP-PCR alone, therefore, changed eight genotype calls in four laboratories (E, F, J and K). Or put differently, 6 of 14 laboratories (42.8%) failed to correctly classify some samples when they performed RP-PCR analysis only. By combining RP-PCR with fragment-length analysis, four laboratories still reported false negative or false positive samples. A significant number of samples (1–10) were unclassifiable/difficult to classify in eight of the laboratories even when RP-PCR and fragment-length analysis were combined.

Genotyping results: comparison of genotyped samples

The genotyping results of all 78 samples are summarised in online supplementary tables S1 and S2 available online. For 50 samples, the results among all laboratories were consistent. In the RP-PCR-only analysis, there were three individuals (6.5, 26.3 and 32.3) who were either misclassified or failed to classify in RP-PCR; these three samples had between 23 and 32 repeats on the wild-type allele, in addition to a large expansion on the other allele. In the amplicon-length analysis, two samples (samples 8.1 and 8.2) from the same family (number 8) were hard to classify: six laboratories identified two amplicons, four laboratories identified one amplicon, and one laboratory classified the samples as 'undecided'. We sequenced these samples and revealed that one allele was a wild-type allele with two repeats, and the other allele had six repeats with a complex of 15 bp deletion/17 bp insertion mutation just after the repeat motif (online supplementary figure S1A,B). We found one more sample (sample 32.1) that carried the same nucleotide variant on one allele, and this sample also carried a large repeat expansion on the other allele (online supplementary figure S1C,D). This mutation is located in the low-complexity sequence region of *C9orf72*,[13] and consequently, may interfere with the PCR-based genotyping method.

As a reference, SB was performed on all samples in a blinded fashion by three laboratories. There was complete concordance among the three laboratories: 46 samples carried a repeat expansion and 32 samples lacked the expansion (online supplementary figure S2).

Table 1 The results of 14 laboratories on 78 samples

	Laboratories													
	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
RP-PCR results														
GGGGCC-repeat expansion														
Yes	46	46	46	46	42	48	45	43	43	45	34	44	41	43
No	32	32	32	32	32	28	33	32	32	30	33	32	33	28
Q	0	0	0	0	4	2	0	3	3	3	11	2	4	7
False positive	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	1	0	0	0
False negative	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2	0	1	0
Sensitivity (%)	100	100	100	100	91.3	100	97.8	93.5	93.5	93.5	71.7	95.7	89.1	93.5
Specificity (%)	100	100	100	100	96.8	87.5	100	100	100	93.8	96.9	100	100	87.5
Unclassified (%)	0	0	0	0	5.1	2.6	0	3.8	3.8	3.8	14.1	2.6	5.1	9.0
Amplicon-length analysis results														
Numbers of amplicon														
0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	N.D.	N.D.	N.D.
1	54	54	55	56	56	54	54	51	56	54	51	N.D.	N.D.	N.D.
2	24	24	22	22	22	24	24	24	22	24	24	N.D.	N.D.	N.D.
Q	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	3	N.D.	N.D.	N.D.
RP-PCR+amplicon-length analysis results														
GGGGCC-repeat expansion														
Yes	46	46	46	46	46	48	45	43	43	43	34	44	41	43
No	32	32	32	32	32	29	33	32	32	30	34	32	33	28
Q	0	0	0	0	0	1	0	3	3	5	10	2	4	7
False positive	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0
False negative	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	1	0
Sensitivity (%)	100	100	100	100	100	100	97.8	93.5	93.5	93.5	73.9	95.7	89.1	93.5
Specificity (%)	100	100	100	100	100	90.6	100	100	100	93.8	100	100	100	87.5
Unclassified (%)	0	0	0	0	0	1.3	0	3.8	3.8	6.4	12.8	2.6	5.1	9.0

No, sample numbers without large GGGGCC-repeat expansion; N.D., not determined; Q, sample numbers of undecided or unclassified samples Yes: sample numbers with large GGGGCC-repeat expansion.

DISCUSSION

Our blinded multicenter study demonstrates limitations of PCR-based techniques used to assess *C9orf72* GGGGCC-repeats, emphasising the need of detailed technical consensus guidelines for diagnostic and research settings.

Comparison of the methods of RP-PCR and amplicon-length analysis

Based on RP-PCR results alone, 50 samples (64.1%) showed congruent results among the participating laboratories. There are many variable RP-PCR protocols (see online supplementary table S3) and a comprehensive comparison is difficult. In summary, the RP-PCR protocols of the four laboratories (A–D) with 100% sensitivity and specificity, we found that laboratories A and C used almost identical methods. Laboratory B used primers that were a modification of the ones previously published,[1] and they deleted the unspecific linker region between the fluorescence tag and *C9orf72*-specific sequence. In laboratory D, the RP-PCR was performed with only two primers. The primers sets P1, 2, 3 and P4, 5, 6 were the most commonly used with five laboratories using each set, and two of the laboratories that obtained 100% sensitivity and specificity used primers set P1, 2, 3. Among the laboratories that failed to classify samples in concordance with the SB results (having false positive and/or false negative), we found that one used a very short PCR elongation time, the PCR products were diluted extensively before capillary electrophoresis, and the concentration of deaza-dGTP was very low, or deaza-dGTP was not used at all.

In the amplicon-length analysis alone, 72 samples (92.3%) had concordant results, highlighting the reliability of this technique, regardless of the differences in PCR reactions and PCR protocols. The set of primers were the same in all laboratories except one, but the PCR reactions and PCR protocols were all different between the laboratories (see online supplementary table S3). Thus, it is not possible to identify specific parameters that could explain the incorrect results for the six samples that were not concordant between the laboratories.

Analyses of the results

All five laboratories that obtained full concordance of the PCR-based and SB results used RP-PCR in combination with amplicon-length analysis. None of the laboratories that performed RP-PCR alone reported the correct genotype in all samples. The sensitivity and specificity increased, and the percentage of unclassified samples decreased in three laboratories (E, F and K) when they performed RP-PCR and amplicon-length analysis. Accordingly, a combination of amplicon-length analysis and RP-PCR methodology is recommended to obtain the highest level of sensitivity and specificity, but it should be emphasised that a high risk of misclassification as either false positive or false negative (6 samples in four laboratories) still exists.

The RP-PCR results alone seemed difficult to interpret if one allele with a relatively large number (20–32) of

GGGGCC-repeats was present in combination with a large repeat expansion on the other allele. This was demonstrated by three individuals who could not be genotyped using RP-PCR alone in five laboratories, possibly because the saw-tooth pattern curve of the large expanded alleles were hidden behind the peaks of the allele with 20–32 repeats (figure 1). Similarly, this intermediate 20–32 repeat allele could easily mimic an expanded allele and become a cause of false positive results.

Based on our data, there is no common definition of what a 'GGGGCC-repeat expansion' in *C9orf72* is, and laboratories classify it in different ways. For example, some laboratories used clear cut-offs, for example, of more than 24 or 30 repeats, while other laboratories used the definition that a saw-tooth pattern in RP-PCR corresponds to a GGGGCC-repeat expansion (see online supplementary table S4). In this study, there was no false positive result based on different classifications of what is an 'expansion'. This study was designed to compare the genotyping results of *C9orf72* among laboratories using the same DNA. An identical amount of DNA was send to all laboratories, but the concentration and quality of DNA may have changed

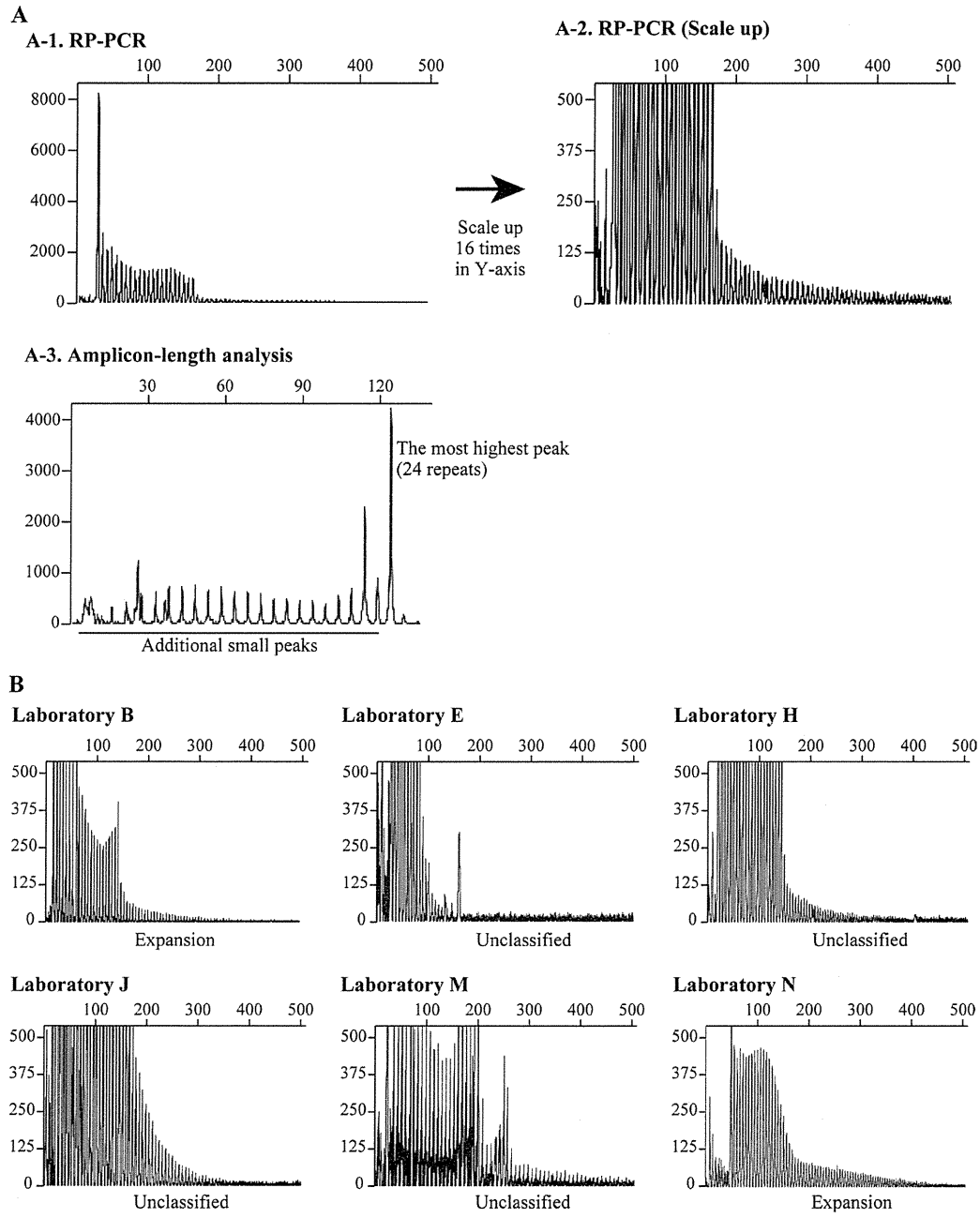


Figure 1 Results from RP-PCR and amplicon-length analysis of sample 6.5. (A) A-1 is the full shape of RP-PCR and A-2 is a 16-times scale-up (Y-axis) shape of A-1. It is possible to see the clear saw-tooth pattern after scale-up. A-3 is the result of amplicon-length analysis and there is a number of small peaks before the highest last peak. It may be hard to identify the amplicon numbers because of these small peaks. (B) The RP-PCR figures and classifications of the same sample in different laboratories. The scale of the Y-axis is the same as in A-2.

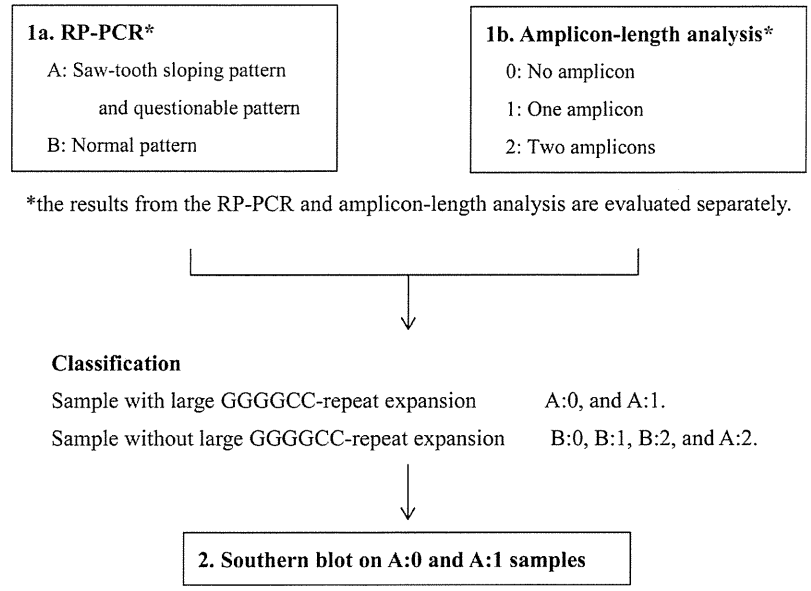


Figure 2 Flow chart for *C9orf72* genotyping in a scientific setting.

during shipping and handling. Another possible limitation of the present study is that most reactions were only performed once in each laboratory, and the accuracy may be improved if reactions were repeated in case of doubt, for example, with more DNA (however, only two laboratories requested more DNA).

Additionally, all laboratories that participated in this study used their own protocols, and hence, this study was not designed to thoroughly assess every single step in the protocol under similar circumstances within laboratories.

Proposed methods for GGGGCC-repeat expansion genotyping in *C9orf72*

There is an urgent need for broad consensus on analysing GGGGCC-repeat expansions in *C9orf72*, which is particularly important in a clinical setting (for diagnosing ALS or FTD, or when performing predictive testing of at-risk individuals), but also for research purposes. A possible algorithm for *C9orf72* genotyping is presented in figure 2. In conclusion, we recommend, that as an absolute minimum, a combination of amplicon-length analysis and RP-PCR should be performed. We recommend using good quality and quantity of DNA and primers, an appropriate concentration of deaza-dGTP, and a minimum elongation time of 3 min. When results are questionable, we suggest (1) expand the analysed scale in the analysis software, (2) use a higher concentration of PCR products in the capillary electrophoresis and (3) repeat RP-PCR with a higher amount of DNA. Though five of the 14 laboratories got full concordance with SB using PCR-based techniques only, the high risk for misgenotyping using only PCR-based techniques as performed here in nine laboratories, and the devastating consequences misgenotyping may have in clinical practise, make us conclude that SB should always be employed in a diagnostic setting, and should be the preferred method in a research setting of smaller number of samples (eg, analysis of the expansion in autopsy tissue specimens). RP-PCR plus amplicon-length analysis should be used in a research setting and when many samples are to be analysed, for example, in an epidemiological study. Optimally, also is such studies should samples with a saw-tooth pattern be confirmed to have an expansion by SB (figure 2).

Author affiliations
[1]Department of Pharmacology and Clinical Neuroscience, Umeå University, Umeå, Sweden
[2]Institute of Human Genetics, Ulm University, Ulm, Germany
[3]Department of Neuroscience, Mayo Clinic, Jacksonville, Florida, USA
[4]Neurodegenerative Brain Diseases Group, Department of Molecular Genetics, VIB, University of Antwerp—CDE, Antwerp, Belgium
[5]Diagnostic Service Facility, Laboratory of neurogenetics, Institute Born-Bunge, University of Antwerp, Antwerp, Belgium
[6]Department of Neurology and Neurosurgery, Montreal Neurological Institute and Hospital, McGill University, Montreal, Quebec, Canada
[7]Department of Biochemistry, Nimes University Hospital, Nimes Cedex 9, France
[8]Center SLA, Montpellier University Hospital, Hôpital Gui-de-Chauliac, Montpellier Cedex 5, France
[9]Medizinisch Genetisches Zentrum, München, Germany
[10]Department of Neurology, Brain Research Institute, Niigata University, Niigata, Japan
[11]Department of Neurology, Brain Center Rudolf Magnus, University Medical Center Utrecht, Utrecht, The Netherlands
[12]Faculty of Medicine-University of Lisbon, Instituto de Medicina Molecular, Hospital de Santa Maria, University of Lisbon, Alameda Universidade, Lisbon, Portugal
[13]Department of neurology, Kantonsspital St. Gallen and University Hospital, St. Gallen, Switzerland
[14]Institute of Psychiatry, King's College London and King's Health Partners, London, UK
[15]Oxford Medical Genetics Laboratories, Churchill Hospital, Oxford, England
[16]Nuffield Department of Clinical Neurosciences, University of Oxford, John Radcliffe hospital, Oxford, UK
[17]Department of Neurology, University of Massachusetts Medical School, Worcester, Massachusetts, USA
[18]Department of Genetics, Stanford University School of Medicine, Stanford, California, USA
[19]Department of Pathophysiology and Transplantation, "Dino Ferrari" Center, Universtà degli Studi di Milano, Milan, Italy
[20]Department of Neurology and Laboratory of Neuroscience, IRCCS Istituto Auxologico Italiano, , Milan, Italy
[21]Department of Neurology, University of Ulm, Ulm, Germany

Acknowledgements We thank the patients and their relatives for participating in this study. We also wish to thank Ann-Charloth Nilsson (Umeå University), Birgit Schmoll (Ulm University), Peter Sapp (University of Massachusetts Medical School), Jovana Kantar and Gonzague Sacaze (Nimes university hospital) for excellent technical assistance.

Contributors CA, AV, PMA and CK designed the study, and with MvB and RR wrote the first drafts of the manuscript. MvB, CA and AV also performed lab analysis and interpreted the results, as did MvdB, CL, SL, WC, BN, OO, WvR, BS, MP, KT, PK, AC, AR, JvdZ, HA, AB, DC, AN, DT, WJ, HD, SA, MD-H, TK, AL-J, KM, JL, JV, VS, AG, CS, GR, LvdB, CvB. SP, MdC, MW and PMA accrued the patient cohort. PMA and CK were the PIs on the project.